

教育委員会定例会議事日程

平成18年12月21日

日程第1 議案第17号

小田原市指定文化財への指定について（文化財課）

議案第 17 号

小田原市指定文化財への指定について

小田原市指定文化財への指定について、議決を求める。

平成 18 年 12 月 21 日提出

小田原市教育委員会

教育長 青木 秀夫

## 小田原市指定文化財への指定について

このことについて、平成18年11月7日に開催された平成18年度第2回文化財保護委員会において、下記の8件を新規に文化財指定することについて承認を受け、同11月15日付けで答申を受けましたので、議決を求めるものです

### 指定物件

番号	名称・員数	種類	所有者
1	刀銘 相州住康春	工芸	小田原市
2	小田原城再興碑（宝永二年）	歴史資料	小田原市
3	小田原城再興天守棟札（宝永二年）	歴史資料	小田原市
4	千代南原遺跡第Ⅳ地点 1号土坑出土土器	考古資料	小田原市
5	千代南原遺跡第Ⅳ地点 1号土坑出土鍛冶関係遺物	考古資料	小田原市
6	千代寺院跡出土瓦（9点）	考古資料	小田原市
	千代寺院跡出土瓦（5点）	考古資料	富田 千春 （郷土文化館寄託）
	千代寺院跡出土瓦（1点）	考古資料	小泉 政一 （郷土文化館寄託）
	千代寺院跡出土瓦（1点）	考古資料	小泉 昭和 （郷土文化館寄託）
7	田島人形	有形民俗文化財	小田原市
8	山王原大漁木遣唄	無形民俗文化財	小田原市山王原大漁木遣唄保存会

平成18年11月15日

小田原市教育委員会

教育長 青木秀夫様

小田原市文化財保護委員会

委員長 松島義章 ㊟

小田原市指定重要文化財の指定について（答申）

平成17年10月13日付け教文第119号で諮問された標記の件について、平成17年度第2回・3回及び平成18年度第2回小田原市文化財保護委員会会議において慎重に審議しました。その結果、下記の8件の文化財指定を承認しましたので、次のとおり意見を添えて答申します。

1. 刀銘 相州住康春

刀銘相州住康春は、研ぎ減りも少なく、保存状態もよい。康春は小田原の刀工の基盤を作ったとされ、小田原にとって非常に重要な刀工といえる。また、本市の歴史資料としても貴重なものであるので指定する必要がある。

2. 小田原城再興碑（宝永二年）

小田原城再興碑（宝永二年）は、元禄十六年の元禄大地震による小田原城倒壊後、宝永二年に大久保氏が天守台を再興した時にその旨を記した石碑で、碑文により宝永二年四月に石垣の復旧工事が完工したことがわかる。小田原城の歴史を表わす貴重な資料であるので指定する必要がある。

3. 小田原城再興天守棟札（宝永二年）

小田原城再興天守棟札（宝永二年）は、元禄大地震による小田原城倒壊後、宝永二年に大久保氏が再興した天守の棟札で宝永二年十二月に上棟したことがわかる。小田原城の歴史を表わす貴重な資料であるので指定する必要がある。

#### 4. 千代南原遺跡第Ⅳ地点1号土坑出土土器

千代南原遺跡第Ⅳ地点1号土坑出土土器259点のうち、完形に近いもの14点、破片ながら学術的に意義の高いもの1点は、相模地方の古墳時代前期土器編年の基準資料として評価されており、貴重な資料であるので指定する必要がある。

#### 5. 千代南原遺跡第Ⅳ地点1号土坑出土鍛冶関係遺物

千代南原遺跡第Ⅳ地点1号土坑出土鍛冶関係遺物は、発掘から20年経つが現在までのところ、東日本において最も古い段階の鍛冶関連遺物であると評価されている。東日本における古墳出現期の社会の変化を理解する上で貴重な資料である全15点について指定する必要がある。

#### 6. 千代寺院跡出土瓦

千代寺院跡出土瓦は、奈良時代に創建された千代寺院跡（千代廃寺）から出土した瓦である。鬼瓦は、武蔵国分寺と同範である。創建期の瓦は松田町のからさわ瓦窯で製作されたことが分かっており、関東地方の古代瓦を考える上で重要な資料である16点について指定する必要がある。

#### 7. 田島人形

田島人形は、明治期に田島に起こった人形芝居の一座である。今後、田島人形を末永く伝承していくために、保存状態の良い22点を文化財指定により保存のための適切な措置を講ずる必要がある。

なお、本品の破損がこれ以上進まないよう、その保存については十分留意されたい。

#### 8. 山王原大漁木遣唄

山王原大漁木遣唄は、漁業に従事する仕事唄と、婚礼及び神社祭礼時の儀式唄を兼有する例として全国的にも珍しい。今後、民俗芸能の中で山王原大漁木遣唄を末永く伝承していくために、文化財指定により保存のための適切な措置を講ずる必要がある。

## 刀銘 相州住康春

1 名 称 刀銘 相州住康春

2 種 類 工 芸

3 数 量 1 点

4 所有者 住 所 小田原市荻窪 3 0 0 番地

氏 名 小田原市

5 概 要 刀銘 相州住康春は、研ぎ減りも少なく保存状態もよい。康春は小田原の刀工のなかでは最も作品が多く、しかも出来栄もよいため、小田原相州を代表する刀工とされる。北条氏康から「康」の字を授かったとされるが定かではない。

本資料は、網一色村で代々名主を勤めた旧家四郎右衛門家に伝来するもので、新編相模風土記稿に「又家蔵の刀一腰は、白鞘、銘に相州住康春作とあり、長さ三尺三寸 忠世陣所とせし頃、賜与せし物云」と記述される刀が本資料に該当する。

6 内 容 計寸：長さ 2 尺 5 寸 7 分 反り 9 分 目釘穴 1 個

刀銘：相州住康春

作者：康春

7 その他 現在、小田原城天守閣に展示公開している。

## 小田原城再興碑（宝永二年）

- 1 名称 小田原城再興碑（宝永二年）
- 2 種類 歴史資料
- 3 数量 1点
- 4 所有者 住所 小田原市荻窪300番地  
氏名 小田原市
- 5 概要 元禄16年（1703）の元禄大地震による小田原城倒壊後、宝永2年（1706）大久保氏が天守台を再興した時にその旨を記した石碑。  
碑文により宝永2年4月に石垣の復旧工事が完工したことがわかる。  
天守台の一石として組み込まれていたものが、大正2年（1923）の関東大震災により発見された。  
石垣に再興の由緒を記したものとして珍しい。
- 6 内容 再興碑：石碑1基  
高さ 144.3cm 幅 60.5cm 奥行 61.2cm 石質 安山岩
- 7 その他 現在、小田原城天守閣に展示公開している。

## 小田原城再興天守棟札（宝永二年）

- 1 名 称 小田原城再興天守棟札（宝永二年）
- 2 種 類 歴史資料
- 3 数 量 1 点
- 4 所有者 住 所 小田原市荻窪 3 0 0 番地  
氏 名 小田原市
- 5 概 要 元禄 16 年（1703）の元禄大地震による小田原城倒壊後、宝永 2 年（1705）に大久保氏が再興した天守の棟札。宝永 2 年 1 2 月に上棟したことがわかる。  
  
昭和 10 年に小峯の大久保神社本殿より小田原有信会の瀬戸秀兄氏が発見した。
- 6 内 容 天守棟札：棟札 1 枚  
  
高さ 164.4cm 幅 40.5cm 厚さ 2.5cm
- 7 その他 現在、小田原城天守閣に展示公開している。



## 千代南原遺跡第Ⅳ地点 1号土坑出土土器

- 1 名称 千代南原遺跡第Ⅳ地点 1号土坑出土土器
- 2 種類 考古資料
- 3 数量 15点
- 4 所有者 住所 小田原市荻窪300番地  
氏名 小田原市
- 5 概要 古墳時代前期の長さ 13.2m、幅 4m 以上、深さ 1.65m を測る大型の土坑から出土した土器群である。この資料は高坏、器台、壺、甕などがあるが、このうち、ひさご壺や裾部が内湾する高坏、小型器台などは、東海地方西部の影響を強く受けたものである。  
  
また、破片であるが叩き甕片は畿内に特有の技法である。これらの土器群は、相模地方の古墳時代前期土器編年の基準資料として重要である。年代的には3世紀後半に位置付けられる。
- 6 内容 壺7点、甕1点、高坏4点、器台2点、碗1点 計15点
- 7 その他 千代南原遺跡第Ⅳ地点での出土土器 259点のうち、完形に近いもの14点、破片ながら学術的に意義の高いもの1点を指定対象とした。

## 千代南原遺跡第Ⅳ地点 1号土坑出土鍛冶関係遺物

1 名称 千代南原遺跡第Ⅳ地点 1号土坑出土鍛冶関係遺物

2 種類 考古資料

3 数量 15点

4 所有者 住所 小田原市荻窪300番地

氏名 小田原市

5 概要 千代南原遺跡第Ⅳ地点から出土した腕形鍛冶滓と羽口である。

発掘から20年経つが現在までのところ、東日本において最も古い段階の鍛冶関係遺物であると評価されている。古墳時代初頭においては、製鉄の技術は権力者と密接に結びついていたものと考えられるが、その鍛冶関連遺物が東海系土器群とともに出土したことは、東日本における古墳出現期の社会の変化を理解する上で重要であるといわれている。

6 内容 鉄滓2点、羽口13点 計15点

年代：古墳時代前期（3世紀後半）

7 その他 千代南原遺跡第Ⅳ地点から出土した全15点を指定対象とした。

## 千代寺院跡出土瓦

- 1 名 称 千代寺院跡出土瓦
- 2 種 類 考古資料
- 3 数 量 9 点
- 4 所有者 住 所 小田原市荻窪 3 0 0 番地  
氏 名 小田原市
- 5 概 要 奈良時代に創建された千代寺院跡（千代廃寺）から出土した瓦である。重圏文や複弁蓮華文の軒丸瓦、葡萄唐草文や重孤文の軒平瓦、鬼瓦、文字瓦などがある。  
  
また、創建期の瓦は松田町のからさわ瓦窯で製作されたことが判明しており、関東地方の古代瓦を考える上で重要である。
- 6 内 容 軒丸瓦 3 点、軒平瓦 3 点、せん 1 点、平瓦 1 点、丸瓦 1 点  
計 9 点
- 7 その他 小田原市教育委員会所有のほか、個人所有（郷土文化館に寄託）のものもある。

## 千代寺院跡出土瓦

- 1 名 称 千代寺院跡出土瓦
- 2 種 類 考古資料
- 3 数 量 5 点
- 4 所有者 住 所 小田原市千代 1 2 8  
氏 名 富田 千春
- 5 概 要 奈良時代に創建された千代寺院跡（千代廃寺）から出土した瓦である。重圏文や複弁蓮華文の軒丸瓦、葡萄唐草文や重孤文の軒平瓦、鬼瓦、文字瓦などがある。鬼瓦は武蔵国分寺と同範である。  
  
また、創建期の瓦は松田町のからさわ瓦窯で製作されたことが判明しており、関東地方の古代瓦を考える上で重要である。
- 6 内 容 軒丸瓦 1 点、軒平瓦 1 点、鬼瓦 1 点、文字瓦 2 点、  
計 5 点
- 7 その他 小田原市郷土文化館に寄託されている。

## 千代寺院跡出土瓦

1 名 称 千代寺院跡出土瓦

2 種 類 考古資料

3 数 量 1 点

4 所有者 住 所 小田原市千代 5 4 1

氏 名 小泉 政一

5 概 要 奈良時代に創建された千代寺院跡（千代廃寺）から出土した瓦である。重圏文や複弁蓮華文の軒丸瓦、葡萄唐草文や重孤文の軒平瓦、鬼瓦、文字瓦などがある。

また、創建期の瓦は松田町のからさわ瓦窯で製作されたことが判明しており、関東地方の古代瓦を考える上で重要である。

6 内 容 軒丸瓦 1 点 計 1 点

7 その他 小田原市郷土文化館に寄託されている。

## 千代寺院跡出土瓦

- 1 名 称 千代寺院跡出土瓦
- 2 種 類 考古資料
- 3 数 量 1 点
- 4 所有者 住 所 小田原市千代 7 7  
氏 名 小泉 昭和
- 5 概 要 奈良時代に創建された千代寺院跡（千代廃寺）から出土した瓦である。重圏文や複弁蓮華文の軒丸瓦、葡萄唐草文や重孤文の軒平瓦、鬼瓦、文字瓦などがある。鬼瓦は武蔵国分寺と同範である。  
  
また、創建期の瓦は松田町のからさわ瓦窯で製作されたことが判明しており、関東地方の古代瓦を考える上で重要である。
- 6 内 容 瓦塔 1 点 計 1 点
- 7 その他 小田原市郷土文化館に寄託されている。

# 田 島 人 形

- 1 名 称 田島人形
- 2 種 類 有形民俗文化財
- 3 数 量 22点
- 4 所有者 住 所 小田原市荻窪300番地  
氏 名 小田原市
- 5 概 要 田島人形は、明治期に田島に起こった人形芝居の一座。阿波の人形芝居が興行に訪れたが不入りだったため、人形一式が売られ、女性一人が残って人形芝居を伝えたと言われる。「遊楽連」という座名で活動し、盛んであったが明治末年（大正初年か）に廃座となった。  
  
人形は、昭和 28 年田島の野地家（元座員）より、発見された。江戸系 18 世紀の鉄砲ざしかしらが多く、また初代由良亀（淡路の人形師）のものともみられる焼印付き胴串もある。
- 6 内 容 かしら 19 点、胴串 1 点、衣装 2 点、 計 22 点
- 7 その他 小田原市郷土文化館に寄贈された田島人形のうち、保存状態のよい「かしら」19点、「胴串」1点、「衣装」2点を指定対象とした。

# 山王原大漁木遣唄

1 名 称 山王原大漁木遣唄

2 種 類 無形民俗文化財

3 保存団体 小田原市山王原大漁木遣唄保存会

住 所 小田原市東町 1 - 2 5 - 3 4

代表者名 末弘 勝

4 概 要 大漁木遣唄は、相模湾一帯の漁民、特に西湘地区で古くから歌われている。漁業に従事するときの仕事唄と、婚礼及び神社祭礼時の儀式唄を兼有する例として全国的にも珍しいものである。ブリ漁が主な漁場では、1つの網を120人くらいで締めたといわれるが、それでも大漁のときは重くてなかなか網が揚がらないとき、みんなの気合を一つにするために木遣唄を歌い、合いの手をかける時に一斉に力を出し合って網を上げた。一回の歌で揚がらなければ、網が揚がるまで何回でも繰り返し歌い続けた。

5 由緒沿革 発祥時期は未詳。元は漁師の労働歌である。山王地区では戦後ブリ漁が衰退すると、木遣唄の伝承も一時途絶えるが、昭和54年有志により、「山王神社大漁木遣唄保存会」が結成された。

昭和55年8月に地区の文化遺産として末永く伝承・保存とともに、後継者育成を図るため「小田原市山王原大漁木遣唄」保存会と改名し活発な活動を続けている。会員数56名である。